

碧海郡の歴史

日長社（岡崎市中島町）の社伝によると、昔、この地域（六ツ美南部）は海中の島で、（中島町という地名は、そのことに由来する？）葦が茂った葦島であった。その後、しだいに開け、日久良志の里と呼ばれるようになり、当地を「日奈加島」と云ったという。第26代継体天皇の御代（507年～531年）、当地が開拓され、五穀豊穰・人民繁栄の守護人として日向国笠狭御崎の神を勧請して日長神社を創祀、日長の宮と呼ばれたという。

大宝年間（701～704年：奈良時代以前）以前は、この地域は、「青見」（あおみ）と表記されていた。「新撰姓氏録」（815年）には、「持統天皇（645～703年）の御代、参河国青海郡」と表記されている。古代木簡によれば、「青見」は青見評（あおみのこおり）にあった青見里（あおみのさと）とされているが、命名の由来は不明である。青見里は、現在の安城市付近にあった里の名前である。後に、「青見」（あおみ）から「碧海」（あおみ）へと表記が変遷した。

「和名抄」（平安時代中期）によれば、碧海郡は智立（知立市）・采女（豊田市上郷、畝部郷）・刑部（おさかべ、所在不明）・依網（所在不明）・鷺取（岡崎市）・谷部（はせべ、岡崎市）・大市（所在不明）・碧海（あおみ、岡崎市）・横禮（所在不明）・皆見（西尾市）・河内（岡崎市：上和田、下和田、宮地、青野、高橋・・・）・櫻井（安城市）・大岡（安城市）・藤野（あさき、所在不明）・驛家（岡崎市）の15の郷を有した。古代木簡には、「知利布」または「知立」（ちりゅう・知立市）、東海道の駅家だった「鳥取」（とり・安城市）、「鷺取郷」（安城市）、「櫻井」（さくらい・安城市）、「采女」「長谷部」（岡崎市）などの郷の名が書かれている。927年（平安時代中期）成立の「延喜式」では、三河三駅の1つとして、鳥捕駅（岡崎市）が見える。

また、律令制当時の矢作川は、現在の川筋（江戸時代初頭に開削）ではなく、矢作古川が本流であったため、西尾と安城は陸続きであったと思われる。よって、西尾市域のうち、南中根・米津だけでなく、志貴野辺りも旧碧海郡と推定されている。碧海郡と幡豆郡の境は、八ツ面山と推定されている。以下の記述は三河国歴史地理資料および愛知県碧海郡誌（参河國碧海郡誌）からの引用による。

■三河国古今城壘地理誌

「三河国古今城壘地理誌」では、三河国は宝飯郡、渥美郡、八名郡、設楽郡、加茂郡、額田郡、幡豆郡、碧海郡の8郡から構成されている。額田郡は岡崎、深溝、六名村、土呂村、坂左右村などの記載がある。幡豆郡は西尾、浅井村、小島村、八面村、羽角村、中島村などの記載がある。中島村は板倉四郎左衛門 同弾正重定の記載がある。碧海郡は刈谷、浅井村、土井村、中ノ郷村、合歎木村、下和田村、浦辺村などの記載がある。浦辺村の記述では、「浦辺村古屋布、渡辺源二兼綱、定国村とも云う。兼綱七郷を領す。宝徳中に口一懸を寄進する。薬師堂宝前に在り。」とある。

「三河国古今城壘地理誌」では、中島村は幡豆郡に、浦辺村は碧海郡にそれぞれ、組み入れられている。

[八名郡]

八名郡（やなぐん、やなのこおり）は三河国東端の郡。愛知県東部の静岡県に接する地域で、三河地方の朝倉川以北の、概ね豊川・宇連川の左岸（一部例外あり）にあった郡。現在の豊橋市朝倉川北岸、新城市南東部および豊川市の一部が該当する。郡域は、東三河4郡で最も狭く、いち早く市域となり郡域は消滅した。7世紀後半の木簡が出土しないことから、大宝律令成立以後の8世紀に成立したと思われる。

[半蔵流嵯峨源氏・渡辺氏]

半蔵流嵯峨源氏と同族で、渡辺源次道綱の子の渡辺八右衛門義綱に始まる渡辺氏は義綱が松平広忠、徳川家康に仕え、永禄十二年に三河国碧海郡赤澁（岡崎市）にて死去した。その子渡辺仁兵衛廉綱、孫の渡辺日根左衛門久綱が榊原家に仕えたが、久綱は浪人し、渡辺守綱の旧臣であることを理由に寺部に住んだ。その子渡辺八郎右衛門定綱が徳川義直に召し出されて渡辺忠左衛門同心となった。また、定綱の弟、渡辺日根左衛門安綱、渡辺八之進増綱は渡辺半蔵家に仕えた。

■三河国墳墓記

「三河国墳墓記」では、三河国は宝飯郡、渥美郡、八名郡、設楽郡、加茂郡、額田郡、幡豆郡、碧海郡の8郡から構成されている。幡豆郡の中に、「板倉氏代々墳墓」の項があり、「中島村長圓寺にあり、中島村は碧海（あおみ）・幡豆（はす）の2郡に属す。南半は幡豆なり。仍て長圓寺をここに載せる」とある。

碧海郡の記述の中に、「板倉内善正墓」の項があり、「高畑村の地中、田園の中の土手囲ひ松樹二株あり。この村は川東にて碧海郡なり」とある。碧海郡の中に、「由良孫八墳」の項があり、「中島崇福寺にあり」とある。

■三河雀

三河雀の第二巻に郡名は不明であるが、

「中島村、蘆安山崇福寺、深津、32石、三河三ヶ寺、檀林所也」とある。

「中島村浄光寺（一向1石）」とある。

「中島村東禅寺（黄檗派4石8斗）」とある。（現豊田市上郷と思われる）

三河雀の第二巻の神社の部に

「中島村薬師堂 10石」とある。（所在地不明）

「中島村神明宮 10石」とある。

■三河国二葉松

「三河国二葉松」の上巻では、三河国は宝飯（寶飯）郡（52,260石）、渥美郡（40,674石）、八名郡（18,690石）、設楽郡（20,514石）、加茂郡（50,908石）、額田郡（43,094石）、幡（旛）豆郡（46,618石）、碧海（阿宇美）郡（78,070石）の8郡から構成されている。8郡の中で石高は碧海郡が最大である。

碧海郡には中嶋、高畑（中嶋郷）、小藪（中嶋郷）、在家、上和田、下和田、野畑、井内、宮地、法性寺、牧御堂、土井、福桶、上青野、下青野、赤澁（あかそぶ）、中ノ郷、合観木、高落、さらに安城、刈谷、米津、古井などの地名が含まれている。他に中島の地名があるが、これは現豊田市（上郷：畝部）にある地名（矢作川の中州）である。

幡（旛）豆郡には羽角、野場、野崎、浅井、小島、江原、貝福、永良、駒場、室村、平原、米野、岡島、須美、さらに西尾、八面、寺津、一色などの地名が含まれている。

額田郡には六名、戸崎、羽根、若松、上地、土呂、北永井、高洲、浦邊、坂左右、さらに岡崎、日名、岩津、大樹寺、明大寺、深溝などの地名が含まれている。正名、定国、中村、国正などの村名がないことから、額田郡の「浦邊」に含まれていると考えられる。



岡崎市史2 1644年頃の三河国絵図（部分）ここでは、矢作川は現在の矢作橋上流で大きな中州を形成しており、中島、川端、中切、宗定の4カ村が中州上に描かれている。これらの村は1889年に畝部村になり、1906年に他村と合併し上郷村になった。

神社部として「三河国 26 座」が記載されているが、六ッ美南部に関係するのは「日長神社」のみである。

「御朱印黒印除地社領之分」が記載されているが、六ッ美南部に関係するのは「中嶋村内宮神明」、「小藺村外宮神明」、「小藺村住吉大明神」の 3 社である。

「御朱印黒印除地寺並諸土方御菩提所」が記載されているが、六ッ美南部に関係するのは蘆安山崇福寺（30 石）、万燈山長圓寺（13 石）と浄光寺（3 石）である。

「三河国二葉松」の下巻では、三州古城記が表されている。碧海郡では「中嶋村古城」があり、由良平八郎、板倉弾正重定および松平大炊助好景の記載がある。額田郡では「浦邊村」があり、「棟札渡部源次兼綱浦邊七郷領主」とある。また「七郷内定國村渡部忠右衛門」とあることから、現在の占部と考えられる。七郷は正名、定国、中村、国正、三ツ木、和田、野畑と考えられる。

従って、江戸時代中期には、中嶋は碧海郡に、浦邊は額田郡に属していたと考えられる。

【三河国歴史地理資料】

愛知県東部地域は昔、三河国（みかわのくに）と呼ばれていた。その三河地方の地理について、江戸時代にはすでに当地の知識人らによっていろいろ調査・研究され、いくつかの書物としてまとめられている。これらの記録を一般に「地誌」といい、自然、社会、風俗・習慣など地域に関するあらゆる事柄が書かれており、郷土の歴史や文化を知る上で貴重な資料となっている。

三河国歴史地理資料（みかわこくれきしちりしりょう）は三河地方の歴史地理に関する最も重要な文献 4 種、「三河国古今城壘地理誌」、「三河国墳墓記」、「三河雀」及び「三河国二葉松」を収録している。

【三河国古今城壘地理誌】

三河国古今城壘地理誌（みかわこくここんじょうるいちりし）は渡辺富秋（1684～1764）の著で、三河国内の城壁や豪族などの居館 395 の所在を郡別に列記し、各城主や館主の略歴を記している。渡辺富秋は「三河国墳墓記」も書いている。江戸時代後期の成立と言われている。

【三河国墳墓記】

三河国墳墓記（みかわふんぼき）は渡辺富秋（1684～1764）の著で、郡別に古墳墓 351 の所在を姓名及び簡単な来歴を列記しているが多くは戦国時代の人々である。江戸時代後期の成立と言われている。

【三河雀】

三河雀（みかわすずめ）は 1707（宝永 4）年に林花翁の撰で刊行されたもので、三河鳳来寺をはじめ寺々の事を記し三河 8 郡の郡別石高、村数、朱印寺社 183 社を列記している。4 巻から構成され、巻末に諸国の奇譚 38 話を納めている。

【三河国二葉松】

三河国二葉松（みかわのくにふたばのみまつ）は江戸時代に著された愛知県の三河地方の地誌書。三河国下長山村の佐野知堯の編。三河国内の古城・古屋敷、古墳墓について来歴や関係人物を各郡・各村別に註記。また関連する古歌も収載。記述は簡潔ながら江戸時代以前の三河国内の郷土史に必要な情報を提供している。成立は 1740（元文 5）年。

【万燈山長圓寺】

万燈山長圓寺は安土桃山時代から江戸時代にかけての大名であり京都所司代でもある、板倉家宗家初代、板倉勝重の菩提寺である。勝重の 7 回忌、1630（寛永 7）年に板倉勝重の長男、重宗が隣村の万燈山山麓に長圓寺を移し、新たに禅林伽藍（ぜんりんがらん）を完備して、山号を「万燈山（まんどうやま）」と改めた。勝重の遺骨の一部を胎内に納めた木像は、愛知県指定の文化財でもあり、境内にある肖影堂に安置されている。本堂は火災により焼失し 1811（文化 8）年に再建されたが、山門は 17 世紀初期の薬医門がそのままの形で残っている。現在は西尾市貝吹町にある。

【渡辺富秋（1684～1764）】

三河国古今城壘地理誌、三河国墳墓記の著者。

■参河國碧海郡誌

(1)「舊（きゅう：旧）郷村」の項に

「倭名抄」によると、平安時代中期には、碧海郡は智立（知立市）・采女（豊田市上郷、畝部郷）・刑部（おさかべ、所在不明）・依網（所在不明）・鷲取（岡崎市）・谷部（はせべ、岡崎市）・大市（所在不明）・碧海（あおみ、岡崎市）・楨禮（所在不明）・皆見（西尾市）・河内（岡崎市：上和田、下和田、宮地、青野、高橋・・・）・櫻井（安城市）・大岡（安城市）・藤野（あさき、所在不明）・驛家（岡崎市）の15の郷を有した。

(2)「**舊郷村：碧海郷**」の項に

阿呼美と読む。現在の六ツ美村の地を碧海荘というので、六ツ美村を指すと考えられる。

(3)「**舊荘園**」の項に

碧海郡には、碧海、重原（刈谷、知立・・・）、志貴（安城、桜井・・・）、枚田（牧内、本郷・・・）および上野（上野、鴛（えん）鴨・・・）の5荘が存在した。

(4)「**舊荘園：碧海荘**」の項に

大部分は矢作川の東にあった荘園で中世に三条女御の所領となった。六ツ美村は全部碧海荘に含まれる。矢作川の西は中切、川端、宗定、中島（畝部郷：現豊田市、上郷）などが含まれる。矢作川の東側は蘆島五郷である碧海郷、和田郷、卜部郷、中島郷、江原郷などから構成されている（碧海郡誌では江原郷の詳細は不明：幡豆郡江原村の可能性もある。荘園は郡をまたいで成立は可能と思われる。）。

(5)「**町村の沿革：上青野・下青野・在家・合歎木・高橋**」の項に

青野の地は蘆島五郷の1つである碧海郷と呼ばれていた。上青野村から合歎木村、在家村、高落村（現西尾市）が分かれていった。

(6)「**町村の沿革：三ツ木・福桶・安藤**」の項に

古くは、上三ツ木、下三ツ木、上福桶、下福桶、安藤を三ツ木五箇村と呼んだ。1651（慶安4）年に領主、水野監物忠善が三ツ木を上三ツ木、下三ツ木に分村した。1652～1655（承應年中）の間に、福桶が上福桶と下福桶に分村した。

(7)「**町村の沿革：中島・高畑**」の項に

中島、高畑の地は蘆島五郷の1つである河邊（かわべ）郷と呼ばれていた。醍醐天皇（885～930）の延喜（901～923）の御代に、四條方盛三河守がこの地に赴任し、河邊（かわべ）郷を中島郷と改名した。

(8)「**町村の沿革：正名・定國・中・國正**」の項に

正名・定國・中・國正の地は蘆島五郷の1つである卜部（うらべ）郷と呼ばれていた。866（貞観8）年に卜部日良麿が三河權守に任命されて、この地に至る。この地を開墾し、卜部郷と名付けた。定國は昔、定郷と言われていた。白田彦連が郡名を定めたと言われている。卜部は占部や浦邊とも記載する。

(9)「**町村の沿革：上和田・宮地・井内・野畑・下和田・坂右左・法性寺・牧御堂・上土井・下土井・赤澁・中の郷・福島新田**」の項に

上和田・宮地・井内・野畑・下和田・坂右左・法性寺・牧御堂・上土井・下土井・赤澁・中の郷・福島新田の地は蘆島五郷の1つである和田（わだ）郷と呼ばれていた。後世に至り、和田郷12村と呼んだ。12村の中に、中の郷は含まれていないが、青野村の記述には、中の郷は和田郷の1村とある。糟目神社は和田郷の郷社である。

(10)「**岡崎藩：領地**」の項に

岡崎藩（江戸時代）には安藤、福桶、下青野、上青野、土井、在家、合歎木、高橋、正名、二軒屋、定國、中、国正、上三ツ木、下三ツ木、中之郷、野畑、上和田、下和田、宮地、法性寺、井内、赤澁、坂右左および中切、配津、中島、川端（現豊田市上郷）などが含まれている。

(11)「**天領**」の項に

中島村は1764（寶（宝）暦13）年～1770（明和7）年まで徳川幕府直轄（天領）であった。

(12)「**朱印池**」の項に

中島村：内宮神明、住吉大明神、浄土宗崇福寺、曹洞宗長園寺、浄光寺

小藪村：外宮神明

の記載がある。

(13)「**諸氏の采地**」の項に

板倉氏代々の采地：高畑村（1624～1703年）、中島村（～1672年）・・・

小笠原氏（板倉氏傍族）代々の采地：高畑村（1703～1869年）、中島村（1672～1869年）・・・

の記載がある。

(14) 明治期の碧海郡とその村役場

1884（明治 17）年の村役場と所属町村は以下のようになっていた。

各組役場名	役場位置	所属町村名
第 20 組長役場	下中島村	下中島村、高畑村、安藤村、福桶村
第 21 組長役場	中村	中村、下三ツ木村、上三ツ木村、正名村、國正村、定國村
第 22 組長役場	井内村	井内村、坂左右村、上和田村、下和田村、宮地村、野畑村
第 23 組長役場	中ノ郷村	中ノ郷村、赤澁村、土井村、牧御堂村、法性寺村
第 24 組長役場	下青野村	下青野村、上青野村、合歡木村、高橋村、在家村

1888（明治 21）年の村役場と所属町村は以下のようになっていた。

各組役場名	役場位置	所属町村名
阿乎美村	高橋	高橋、下青野、上青野、福桶、合歡木、在家
中島村	下中島	下中島、高畑、安藤
占部村	中	中、下三ツ木、上三ツ木、正名、國正、定國、坂左右、野畑、下和田
糟海村	法性寺	法性寺、井内、宮地、法性寺、牧御堂、上和田、土井、中ノ郷、赤澁

1906（明治 39）年の碧海郡は次の 12 町村から構成されていた。知立町、刈谷町、依佐美村、高濱町、明治村、櫻井村、六ツ美村、矢作町、安城町、上郷村、高岡村、富士松村。

[明治の大合併]

1888（明治 21）年～1889（明治 22）年は明治の大合併が行われた。近代的地方自治制度である「市制町村制」の施行に伴い、行政上の目的（教育、徴税、土木、救済、戸籍の事務処理）に合った規模と自治体としての町村の単位（江戸時代から引き継がれた自然集落）との隔たりをなくすために、町村合併標準提示（明治 21 年 6 月 13 日 内務大臣訓令第 352 号）に基づき、約 300～500 戸を標準規模として全国的に行われた町村合併。結果として、町村数は約 5 分の 1 になった。

[明治から戦前までの合併]

1889（明治 22）年以降も町村合併は進められ、1898（明治 31）年までにさらに 2,849 減少したが、1898（明治 31）年以降は漸減傾向で推移し、1918（大正 7）年までには 267 が減少したのみだった。1923（大正 12）年に郡制が廃止されたが、これをきっかけに町村合併等の機運が盛り上がり、1918（大正 7）年から 1930（昭和 5）年までの 12 年間に、町村数は約 500 減少した。その後、1940（昭和 15）年に紀元 2600 年を記念して合併が進められた時期などがあり、1943（昭和 18）年には市数 200、町村数 10,476 となった。1945（昭和 20）年、第二次世界大戦終戦直後には、市数 205、町数 1,797、村数 8,818 となっていた。

[昭和の大合併]

戦後、新制中学校の設置管理、市町村消防、自治体警察の創設、社会福祉、保健衛生関係などが新たに市町村の事務とされ、増大した行政執行の財政確保のために、市町村を適正規模に拡大することが必要となった。このため、1953（昭和 28）年に町村合併促進法が施行され、新制中学校 1 校を管理するのに必要な規模としておおむね 8,000 人以上の住民を有することが標準とされた。さらに、「町村数を約 3 分の 1 に減少することを目途」とする町村合併促進基本計画（昭 28 年 10 月 30 日閣議決定）の達成のため、1956（昭和 31）年に新市町村建設促進法が施行され、全国的に市町村合併が推進された。1953（昭和 28）年の町村合併促進法施行から、新市町村建設促

進法を経て、1953（昭和28）年10月に9,868あった基礎自治体が1961（昭和36）年には3,472になり、約3分の1に減少した。

(15) 明治6年の「教育」の項に

第40番小学中島学校（明治6年8月28日創立）が上三ツ木村圓玄寺にあった。（定國村、國正村、中村・・・）

第41番小学中島学校（明治6年8月15日創立）が下中島村崇福寺にあった。（下中島村、正名村、安藤村）

の記載がある。

(16) 明治15年の「教育」の項に

第41番小学中島学校（定國村、國正村、中村・・・）

第42番小学中島学校（下中島村、高畑村、正名村、安藤村）

の記載がある。

(17) 明治19年の「教育」の項に

第19学区 中島尋常小学校（中島村、高畑村、安藤村、福桶村）

第20学区 三ツ木尋常小学校（正名村、定國村、國正村、中村・・・）

の記載がある。

(18) 明治39年の「教育」の項に

六ツ美村には6つの小学校がある。龍南高等小学校（下青野）、六ツ美第一尋常小学校（法性寺）、六ツ美第二尋常小学校（土井）、六ツ美第三尋常小学校（高橋）、六ツ美第四尋常小学校（下中島）、六ツ美第五尋常小学校（中）、

の記載がある。

(19) 明治40年の「教育」の項に

六ツ美村では3つの小学校に統合された。六ツ美第一尋常高等小学校（龍南高等小学校、六ツ美第一尋常小学校、六ツ美第三尋常小学校を統合）、六ツ美第二尋常小学校、六ツ美第三尋常小学校（六ツ美第四尋常小学校、六ツ美第五尋常小学校を統合）

の記載がある。

(20) 「水利組合」の項に

高橋用水（明治30年設立）、占部用水（明治30年設立）、安藤川悪水（明治30年設立）

の記載がある。

(21) 産業の「会社工場一覧」の項に

杉浦製絲工場（場主：杉浦藤助、明治33年設立、職工250名）

の記載がある。

(22) 「交通運輸」の項に

六ツ美村に関係する道路として、土呂街道、福岡線、鷲塚線、大濱線

六ツ美村に関係する鉄道として、西尾鐵道

の記載がある。

・近代の村の変遷：碧海郡

1889年直前	1889. 10. 01		1906. 05. 01	1958. 10. 15		
中村	占部村 (うらべ)	占部村 (うらべ)				
定国村						
上三ツ木村						
下三ツ木村						
正名村						
国正村						
坂左右村						
下和田村						
野畑村						
下中島村					中島村	中島村
高畑村						
安藤村						
上和田村	糟海村 (かすみ)	糟海村 (かすみ)				
宮地村						
井内村						
牧御堂村						
法性寺村						
中之郷村						
土井村	1893. 06. 01 中井村					
高橋村	阿乎美村 (あおみ)	阿乎美村 (あおみ)				
福桶村						
上青野村						
下青野村						
在家村						
合歡木村					1891. 11. 10 合歡木村	
1889年直前	1889. 10. 01				1906. 05. 01	1960. 10. 01
中切村	畝部村 (うねべ)	畝部村 (うねべ)			上郷村	上郷村
宗定村						
川端村						
上中島村						
阿弥陀堂村						
国江村						
配津村						

過去、中島は碧海郡に2箇所あったため、現、豊田市（上郷）の中島を上中島、現、岡崎市の中島を下中島と呼んだと推定される。過去（江戸時代以前）の資料は中島の区別がないため、現存するものと比較して見極める必要がある。

・近代の村の変遷：幡豆郡

1889年直前	1889.10.01		1906.05.01	1954.01.01
西浅井村	川崎村 (かわさき)	川崎村 (かわさき)	三和村 (みわ)	西尾市
東浅井村				
高落村				
新村				
小島村				
米野村				
江原村	御鋤村 (おくわ)	御鋤村 (おくわ)		
岡島村				
尾花村				
和気村				
大和田村				
高河原村				
貝吹村	吹羽良村 (ふきばら)	吹羽良村 (ふきばら)		
上羽角村				
下羽角村				
上永良村				
下永良村				
1889年直前	1889.10.01		1932.09.01	1954.08.10
室村	室場村 (むろば)	室場村 (むろば)	室場村	西尾市
駒場村				
花蔵寺村	花明村 (けみょう)	花明村 (けみょう)		
善明村				
家武村	家武村	家武村		
平原村	平原村	平原村		

・近代の村の変遷：額田郡

1889年直前	1889.10.01	1906.05.01	1909.07.28	1952.04.01
菱池村	相見村 (あいみ)	広田村	幸田村	幸田町
北鷲田村				
横落村				
大草村				
高力村				
坂崎村	坂崎村 (さかざき)			
長嶺村				
久保田村				
深溝村	深溝村 (ふこうず)			
芦谷村				
萩村				
1889年直前	1889.10.01	1893.11.08	1945.10.01	1955.02.01
福岡村	福岡村 (ふくおか)	福岡町	福岡町	岡崎市
上地村				

本項は以下の資料を引用している。

[愛知県碧海郡誌]

発行所：(株) 千秋社
印刷所：図書印刷(株)
発行日：2000(平成12)年6月15日
原著：参河國碧海郡誌
発行者：碧海郡教育會
印刷所：江戸川印刷(株)
発行日：1916(大正5)年10月15日

[愛知県幡豆郡誌]

発行所：愛知県郷土資料刊行会
発行者：生田良雄
発行日：1981(昭和56)年3月27日復刻
原著：愛知県幡豆郡誌
発行者：幡豆郡役所
印刷所：うしほ印刷所
発行日：1923(大正12)年6月

[三河國額田郡誌]

発行者：生田良雄
発行所：愛知県郷土資料刊行会
発行日：1981(昭和56)年2月21日復刻
原著：三河國額田郡誌
発行者：愛知県額田郡役所
印刷所：西濃印刷(株)
発行日：1924(大正13)年3月20日

[三河國歴史地理資料]

発行人：泰山哲之
発行所：(株) 歴史図書社
印刷所：藤原印刷(株)
発行日：1980(昭和55)年8月25日